

支援学級における 今年度の新たな取り組み

プログラムの構築に至った経緯

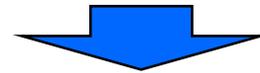
- ・様々な課題を抱え、なかなか教室に上がれない支援学級在籍生徒の増加。
- ・生徒の抽出時間数の増加。
- ・支援教育の経験が浅い先生の増加。
- ・在籍人数が増える中で、個々生徒の対応や指導が難しくなってきた。



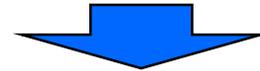
- ・昨年度からの課題をふまえて、何かできないかと支援チームでアイディアを出し合って考えた。

先生方の学びと構築の過程

- ・今年度、1学期にとりかい高等支援学校や箕面東高校のモジュール授業等を見学。どのような取り組みを展開しているのかを知る。また、一中を卒業した生徒の進路を知る。
- ・校区小中連携（支援教育）の一環として小学校の授業を見学した。
(支援学級・通常の学級ともに)



- ・夏休みにミーティングを行い、支援担の悩みや支援学級の課題等を話し合ったうえで、支援学級での1日のプログラムを作成した。



- ・夏休み明けに、支援学級で過ごす時間の多い生徒へ、実施する目的やルール等を説明した。試験期間を2週間程度設けて運用をスタートした。



- ・試験期間後、子どもの振り返りを聞いて、一部修正等をしながら本格的に運用をスタートした。日々、試行錯誤しながら現在に至る。

プログラム（時間割）

※日々、多少の変化はありますが大枠はこの形です。
生徒によって参加の仕方は違います。

- ・コグトレや運動タイム、ライフスキルタイムなど主で動く担当者を決めています。
- ・教科授業は支援担、通担が授業を日替わりで行う。

	月	火	水	木	金	
1	コグプリ	コグプリ	コグプリ	コグプリ	おおぞら数学	
2	教科勉強 (先生授業)	教科勉強 (先生授業)	教科勉強 (先生授業)	教科勉強 (先生授業)	教科勉強 (先生授業)	抽出時間帯①
3	運動タイム・自己調整タイム					
4	提出物	提出物	提出物	提出物	提出物 (3年進路学習)	抽出時間帯②
5	農園タイム				ライフスキルタイム	←月1回 喫茶の練習 月1回 清掃活動 月1回 料理(ゼリー作りなど) 月1回 ものづくり(工作、美術等)
6	コミュニケーションタイム(振り返り)					
終礼	振り返り(先生と一緒に)					週1回1時間 学年の支援担と面談

プログラム（時間割）

※日々、多少の変化はありますが大枠はこの形です。
生徒によって参加の仕方は違います。

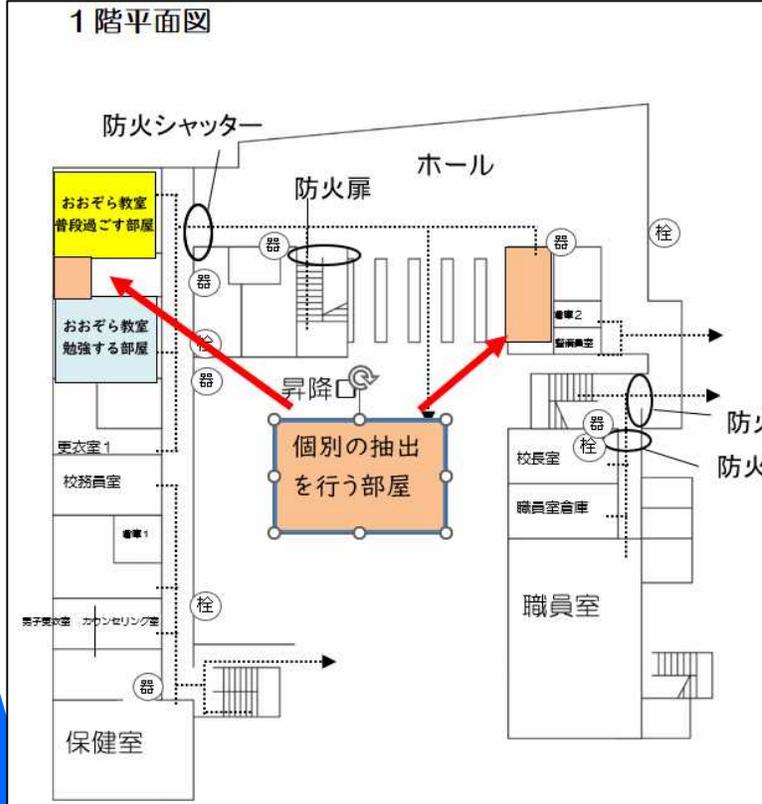
	月	火	水	木	金	
1	コグプリ	コグプリ	コグプリ	コグプリ	おおぞら数学	
2	教科勉強 (先生授業)	教科勉強 (先生授業)	教科勉強 (先生授業)	教科勉強 (先生授業)	教科勉強 (先生授業)	
3	運動タイム・自己調整タイム					
4	提出物	提出物	提出物	提出物	提出物 (3年進路学習)	抽出時間帯②
5	農園タイム				ライフスキルタイム	←月1回 喫茶の練習 月1回 清掃活動 月1回 料理（ゼリー作りなど） 月1回 ものづくり（工作、美術等）
6	コミュニケーションタイム（振り返り）					
終礼	振り返り（先生と一緒に）					週1回1時間 学年の支援担と面談

・教科授業では、支援担・通担の専門教科あるいは自立活動に関する内容を行っています。
・各時間、同時に2人～10人程度までを同時抽出し、2人～3人の支援担で指導を行っている。（支援員さんにも一緒に入っていただくこともあります。）

支援教室の使い分け

勉強をする部屋

普段過ごす部屋



この扉で勉強する部屋
と行き来します。

教室を使い分けるように
することで切り替えを
少しでもしやすくするよう
な工夫をしている。

個人で抽出する部屋





コグトレや
運動タイムの様子



農園タイムと収穫した
野菜などの一部

個人生活計画	2月3日 自己調整計画
目標	この学期の目標は、先生や先生に お話を聞けるようになる
計画期間	1月10日
内容	この学期の目標は、先生や先生に お話を聞けるようになる
達成状況	
計画期間	1月20日
内容	この学期の目標は、先生や先生に お話を聞けるようになる
達成状況	
計画期間	1月30日
内容	この学期の目標は、先生や先生に お話を聞けるようになる
達成状況	
計画期間	
内容	
達成状況	

自己調整タイムの
目標・振り返り用紙



ライフスキルタイムの
調理実習の様子



教科授業
(写真は応急処置の授業
と看板づくりの授業)

子どもたちの声

- ◎ものを作れたりは好き。
- ◎運動タイムとか良いと思う。
コグトレよりも別の課題をやりたいと思うときもある。
- ◎運動タイムはちょっと嫌やけど、それ以外は
ボチボチできるから良いかな。調理実習は好き。
- ◎別に普通やけど。
自分で授業もできる機会もあって良かった。
- ◎まあまあ慣れてきた。悪くない。



新たな形を作る中で

- ・管理職が校内人事で、支援学級担任の主軸に担任等の経験豊富な先生を配置し、支援学級の充実に努めた。
- ・支援担任経験が3年以下の先生が多く、新たな視点や悩みをふまえて、手探りながらも考え、新たな形を模索することができた。
- ・通級指導担当者も一緒にミーティング等に参加し、連携してプログラムを組み立てていくことができた。

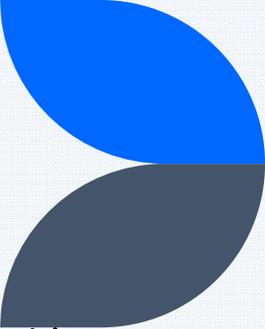


良かった点

- ・やることが明確になったり、見通しがつくことによって、生徒が落ち着いて過ごせるようになってきた。
- ・おおぞらプログラムの授業だけでなく、教室の授業も興味を持つようになった。
- ・小さな集団で過ごすことによって、少しずつ社会性が芽生えたり、人と話せるようになってきたりしている。
- ・支援担や通担も教科授業等を通して、授業の工夫であったり課題を抱えた生徒に対しての授業づくりを考えることができる。



課題・改善点



- ◎ 今の形で運営していくには、さらに人員の確保が必要である。
支援学級の生徒の人数は、通常の学級のように多くはないが、生徒それぞれ抱える課題が違うため、対応には苦慮することも多い。そのため、高等支援学校や支援学校のように、1時間につき複数名（3人程度は最低でも必要である）と感じている。
- ◎ 1つひとつのプログラムの取り組みの精度を充実させていきたい。
- ◎ 支援学級でのプログラムや抽出の充実が少しずつできつつあるが、入り込みが手薄になることがある。優先度をつけて対応しているが、対応が難しくなることもある。入り込みも通常の学級とのつながりや社会性を育む大切な場なので両立を図っていきたい。
- ◎ 支援チームのシフトを組むことが大変である。色んなことを考え、組むので手間がかかる。

ご清聴ありがとうございました。

